

JA全農えひめ情報

あけぼの

■特集

JA全農・愛媛県本部「平成29年度事業計画」

4

2017・April



愛媛の酒蔵めぐり

22

石 鎚



▶石鎚酒造は、平成27年度全国新酒鑑評会最高位の金賞受賞。家族中心の造りとなつて18年、うち14回入賞以上の実績をもつ

石鎚酒造株式会社

代表銘柄 石鎚
 創業 1920年（大正9年）
 代表者 代表取締役 越智 英明
 住所 西条市氷見丙402-3
 TEL 0897-57-8000

▲(右)「石鎚 純米大吟醸」。丁寧に手造り本位で醸した蔵元自信作
 (中)「石鎚 純米吟醸 緑ラベル」。穏やかながら凛とした気品漂う食中酒。スタンダードな蔵元イチ押し酒
 (左)「石鎚 無濾過純米」。県産松山三井の旨味をそのままに透明感のある芳香豊かな純米酒

西日本最高峰・石鎚山の麓で、その恩恵を受けながら、名の如く高く清らかな酒造りを、と命名の「石鎚酒造」は、新居浜で14代にわたる庄屋から、西条での回船問屋を経て酒造業に転身した越智家・恒次郎氏によりはじまります。昭和5年頃には精米歩合50%の吟醸酒「黒松」が当地方を代表する高品質な酒として、「せめて黒松飲ませてやりたや」と歌われたほどです。杜氏主導の酒造りから、平成11年に家族中心の造りへと転換します。いわば現代の酒造りの先駆的な存在です。伝統を引き継ぐ手づくりの酒はそのままに、大規模仕込みではできない、手作業だから成せる愛情と情熱のこもった酒造りです。特に力を注ぐ麹造りは全量独自の箱麹で、力強くさわやかなのが特徴。速醸酒母で味がよく、健常で純粋な酵母を拡大培養した後、もろみは5〜12度の低温で長期間発酵し、ゆっくりと搾りもまた昔ながらに酒槽による袋搾り、仕込み水は石鎚山系の伏流水で中軟水。それらのすべてが融合し、きめが細かく、ピロロドのようにやわらかで、澄んだ香りに、すっきりとした口当たり、食事に活きるお酒です。

目指すのは「3杯目から旨くなる酒」。「すうーつと飲んで疲れない、おいしいおいしいと言いなながら気がつけば3杯目になっていた」と、専務の越智浩さんの種あかしに、思わず笑みがこぼれます。

めぐり〜ど

April 2017

CONTENTS

全農グループの経営理念

私たち全農グループは、
生産者と消費者を安心して結ぶ
懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

今月の表紙



大きなランドセルのピッカピカの新入生と、お姉さんお兄さんが一緒に帰る、心うき桜並木のあぜ道に、突然の春の優しい通り雨。満開の桜の花びらがレンゲのじゅうたんの上にひらひらと舞い落ちていきます。その中を進む赤や黄色のカラフルな傘の列もまた楽し！ 万物を潤し育てる恵みの雨は、ひと雨ごとに季節を前へと進めていきます。

●表紙：春時雨
はら ふみ(イラストレーター)

※「めぐり〜ど」は、「愛媛農業 (Agriculture)」を「リード (Lead) する」という意味と「心をつなげる (Agreed)」という意味を込めています。

農の風景Vol.196

愛媛の酒蔵めぐり②～石鎚酒造株式会社

2 〈特集〉JA全農・愛媛県本部「平成29年度事業計画」
～より近く より深く より前へ～
「農業所得の増大」「農業生産の拡大」
「地域の活性化」
をグループをあげて実践！

10 人事異動/事務所移転のお知らせ（園芸部直販課）

11 全農愛媛県本部 2017年度機構図&ライン管理職等配置

12 THE・ねっとわーく

13 統計BOX

14 ふるさと ESSAY VOL.264
柔道を通じての学び
棟田 利幸さん

16 TOPIC NEWS

19 なんでもBOX

20 READERS通信

NOW NOW COOKING

〈今月の素材〉えひめみかん・いよかんジュース

JA全農えひめ

ホームページ
<http://www.eh.zennoh.or.jp>

- JA全農えひめ「えひめの食」企画
<http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimenosyoku/>
※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。
- ◆(株)えひめ飲料
<http://www.ehime-inryo.co.jp>
- ◆JAえひめアイパックス(株)
<http://www.iyokkora.jp/>
- ◆JAえひめ物流(株)
<http://www.jat-ehime.co.jp/>
- ◆JAえひめフレッシュフーズ(株)
<http://fresh-ranran.jp/>
- ◆(株)ひめライス
<http://www.himerice.jp/>
- ◆JAえひめエネルギー(株)
<http://www.ja-ehimeene.co.jp>

より近く より深く より前へ

「農業所得の増大」「農業生産の拡大」

「地域の活性化」をグループをあげて実践！

JA全農 29年度計画

基本方向

1. 情勢認識

JA全農は、農業所得の増大・農業生産の拡大・地域の活性化をすすめるため、次の3つの重点事業施策を柱とする3か年計画を策定し、グループをあげて実践しています。

(1) 「**持続可能な農業生産・農業経営づくりへの貢献**」では、①マーケット

トインを軸に販売事業の強化に取り組みとともに、②農業経営の足腰を強くするための生産から販売までのトータルコスト低減の取り組みでは、全国モデル55JAでの実証例が積み上がりつつあります。また、③多様化する農業者ニーズへの対応に

ついては、農業の大型規格商品の開発や鉄コーティング直播技術の実証・普及、高生産性水田輪作の実証など、省力・低コスト・生産性向上に寄与する新商品・新技術の開発・普及の取り組みを強化しています。

(2) 「**海外事業の積極展開**」では、中国の大手リン酸製造会社やブラジルの穀物会社への出資など、肥料・飼料原料の調達機能強化・拡充に取り組んでいます。農畜産物の輸出拡大に向けては、英国の食品卸売会社を買収するなど輸出体制の強化をすすめています。

(3) 「**元気な地域社会づくりへの支援**」では、農村人口が減少していくなか、JA生活店舗の業態転換やSの低コスト提案など、ライフライ

ンづくりを強める取り組みをすすめています。

こうしたなか、日本農業を成長産業にする一環としてのTPP関連政策大綱に関連して、自民党では農業者が直接関係ない分野の検討課題を定め、27年11月から検討に入りました。検討にあたっては、自民党内に農林水産業骨太方針策定PT（以下「骨太PT」とする）、農業基本政策検討PT、および畜産・酪農対策小委員会を立ち上げ、28年1月から検討を本格化しました。JA全農は、この検討項目のなかで自らの事業と直接関わる、①生産資材価格形成の仕組みの見直し、②流通・加工の業界構造の確立の2テーマについて骨太PTと協議を重ねてきました。この協議過程で構想した新たな取り組みについては、全中が28年9月に組織決定した『魅力増す農業・農村』の実現に向けたJAグループ

表1 JA全農 平成29年度取扱計画

(単位：億円)

事業	年度	29年度	28年度	前年比
米穀農産事業		7,616	7,519	101%
園芸事業		11,813	11,624	102%
畜産事業		10,567	10,888	97%
営農・生産資材事業		8,050	8,633	93%
生活関連事業		7,884	8,024	98%
合計		45,929	46,687	98%

の取り組みと提案」に織り込み、検討項目・方向性をあきらかにしていきます。
 なお、その後の骨太PT等での検討の結果は、上記の①②を含めた13項目に渡ってとりまとめられ、28年11月下旬、与党で「農業競争力強化プログラム」として決定し、これを受け政府は「農林水産業・地域の活力創造プラン」を改訂しました。
 また、この「農業競争力強化プログラム」では、

全農として取り組みべきとされた購買・販売事業関連について年次計画や数値目標を策定し、実践に入るよう要請されています。
2. 29年度計画の基本的な考え方
 3か年計画で定めた事業施策の基本フレームに、「魅力増す農業・農村」の実現に向けたJAグループの取り組みと提案」で示した具体策を加え深化・拡

充するとともに、「農業競争力強化プログラム」でJA全農に求められている取り組みの具体化をはかり、スピードを上げて実践します。
 (1) 「魅力増す農業・農村」の実現に向けたJAグループの取り組みと提案」で示した具体策
 ①購買事業関連
 ア. 生産資材の銘柄・規格の集約
 イ. 飼料の製造・流通コスト低減
 ウ. 肥料・飼料原料の購買力強化
 ②販売事業関連
 ア. 事前契約の早期化や精米販売の拡大
 イ. 契約取引による加工・業務用野菜の取扱拡大
 ウ. 販売事業における直販事業の拡大
 エ. 国産農畜産物の輸出拡大に向けた体制強化
 (2) 新たな事業施策の検討・具体化・実践
 「農業競争力強化プログラム」の関連で、さらなる検討が本会に求められている項目については、組織協議をふまえてスケジュールを明確にし、取り組みの具体化をはかります。
 ①購買事業関連
 共同購入の対象となる生産資材品目について、そのスケールメリットの最大化に向けた新たな事業モデル

等の検討・具体化・実践策の策定
 ②販売事業関連
 マーケットインにもとづく直接販売の拡大に向けた事業の拡充と新たな事業モデルの検討・具体化・実践策の策定
 (3) 災害からの継続的な復旧・復興支援
 東日本大震災や熊本地震など農業生産に甚大な被害を与えた災害からの復旧・復興に向けて、行政や他団体等と連携し、全農グループが一丸となり被災地のニーズに即した取り組みを実践します。
 (4) 全農グループで共同した事業の展開
 重点事業施策の実践に向けて、全農グループで戦略を共有化するとともに、経営資源の有効活用など合理的な事業運営・経営管理に取り組みます。
経営計画
取扱計画
 米・青果物の取り扱いが増加するものの、肥料・飼料の原料供給価格低下による影響が大きく、取扱高は4兆5,900億円とします。
収支計画
 取扱高の減少により、事業総利益

は28年度計画から53億円減少します。一方、事業管理費の削減や、その他経常損益の改善などにより、当期剰余金は29億円とします。

剰余金処分計画

剰余金処分は、利益準備金5億円、出資配当金23億円（2%）、任意積立金16億円を計画します。

財務計画

(1) 自己資本計画

準備金・積立金は、事業開発積立金・情報システム開発積立金・農薬開発積立金の取崩しで16億円の減少、および利益準備金5億円、任意積立金16億円の増加を計画します。また、繰越剰余金23億円を計画します。

(2) 施設等取得・処分計画

販売力強化に向けた米穀農産関連の集出荷施設や園芸・畜産関連の実証施設、および直売所・外食店舗などの取得を計画し、317億円とします。

(3) 外部出資計画

米穀農産事業における米穀の安定的な販売先確保や、生活関連事業における新業態店舗出店に向けた外部出資などを計画し、44億円とします。

要員計画

事業環境に対応した要員体制とする観点から、30年3月末の職員数は、7,750名程度とします。

愛媛県本部 平成29年度事業計画

最重点施策

愛媛県本部では、3か年計画で定めた重点事業施策を基本に、第36回JA愛媛県大会で決議された「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」への挑戦、「地域の活性化」への貢献に向けて、「農業者所得増大チャレンジ事業」に取り組んでいきます。さらに、『魅力増す農業・農村』の実現に向けたJAグループの取り組みと提案」で示した具体策を踏まえ、各事業施策の深化・拡充をはかるとともに、「農業競争力強化プログラム」でJA全農に求められている取り組みの具体化に向けて、スピードを上げて実践していきます。

耕種事業

(営農食糧部・園芸部・生産資材部)

JAグループ自己改革の目標である「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」をめざし、JA・関係事業部門連携の更なる強化により「農業者所得増大チャレンジ事業」の加速化に取り組みます。

重点項目として、新たな需要への対応や共販量・企画販売・販路拡大

に向けたマーケットインにもとづく生産・販売事業方式への転換、生産流通コスト引き下げによるトータルコストの低減、担い手への訪問活動強化による多様な農業者ニーズへの対応に取り組み、農家手取りの最大化ならびに愛媛農業の振興に貢献していきます。

畜産事業

事業競争力ならびに生産基盤の強化をはかるため、新技術普及による生産性向上対策や休閑施設利用等による農場再編整備をすすめる、肉牛・肉豚生産者の所得向上に取り組めます。

また、系統ブランド（伊予牛「絹の味」・ふれ愛・媛ポーク）の安定生産と品質向上につとめるとともに、大手量販店・料飲店とのマッチング販売推進や直営店舗運営による消費者への直接訴求、地産地消に取り組めます。

生活事業

「地域の活性化」へ貢献するため、地域実態・組合員ニーズに対応した事業・品目の取扱い強化をはかり、くらしの支援事業の提案と実践につとめます。

耕種事業概念図（農業者所得増大チャレンジ事業の概要）

事業方針 「魅力増す農業・農村」の実現に向け、JAグループ自己改革の「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」を図るため、JA・部門間連携の更なる強化により取り組みを加速化する。

重点施策
農業者の所得増大＝販売改革×生産性向上＝コスト削減

マーケットインに基づく生産・販売事業方式への転換
29年度【販売品取扱高】451億円

<生産振興・産地づくり>
○農地のフル活用
○重点品目の生産振興
○業務用など需要に基づく生産

<販売事業の強化>
○買取・直販・企画販売ならびに共販量の拡大
○知財活用による高付加価値化

トータルコスト低減等の実践
生産性向上＋コスト低減、省力化

<生産性の向上>
○収量・品質向上・省力化技術・資材の普及
○土壌診断に基づく適正施肥

<生産流通コスト引き下げ>
○銘柄集約・担い手直送など価格メリット創出と弾力的価格設定
○低コスト資材・農機の普及
○広域物流・広域選果体制の確立

多様な農業者ニーズへの対応

<県域担い手サポートセンター>
○担い手の育成支援
○労働力確保対策
○営農指導員の人材育成
○農地流動化対策

<TAC活動の強化>
○JATAC活動の活性化支援
○各部門・連合会との連携による県域での訪問活動の強化

品目別重点取組事項

<食糧班> にこまる・ハルヒメボシ
○水田フル活用／○収量・品質向上対策
○米の食味向上／○業務用品種の実証

<果実班> 温州みかん・キウイフルーツ
○生産量維持・正品率の向上
○企画販売・ギフト・輸出推進

<野菜花卉班> 玉ねぎ・里芋・レタス＋枝豆
○レタス＋枝豆実証／○加工業務用拡大
○東予地区里芋広域共選体制の確立

<肥料・農薬・園芸資材>
○銘柄集約による価格引き下げ
○肥料満車・農薬担い手直送の対応
○土壌診断による土づくり・適正施肥
○収量・品質向上・省力体系・資材の普及
○規格型低コストハウスの普及

<農機>
○重点型式・低価格モデル農機の普及と中古流通促進
○農機の延命・効率化
○作物別機械化一貫体系の提案
<段ボール>
○予約精度向上によるメリットの最大化
○機能性段ボール等の企画提案

農家手取りの最大化・愛媛農業の振興

【対策要領による支援】 ①生産振興・担い手支援対策、②コスト低減対策
【県域機能強化による支援】 ①県域担い手サポートセンター活動強化、②県域での労働力支援体制の整備研究、
③新規作物・重点品目・営農体系の実証、④広域集荷・選果体制確立の支援

また、県内産を中心とした国産農畜産物の消費拡大をはかるため、地産地消の取り組みとネットシステムを活用した宅配事業や直販事業の拡大に努め、くらしの安全・安心と

健康への貢献に取り組みます。

併せて、環境関連事業や石油・ガス等エネルギーの効率的供給に取り組み、快適で環境にやさしい生活と高齢者対応事業の研究に取り組み、豊かで暮らしやすい地域社会の実現に貢献します。

物流

広域化を見据えた物流体制の構築とコスト低減による事業競争力の強化に取り組みます。

グループ会社

JAグループの会社として生産者・JA・消費者の期待に応えるよう、生産・加工・販売・購買・物流の各分野においてグループでの事業機能の向上をめざします。

また、愛媛県本部グループ会社全社の健全経営を確立し、愛媛農業の振興支援に取り組みます。

事業別実施具体策

営農食糧部

1. 現3か年計画で示した事業施策の着実な実践

① 「農業者所得増大チャレンジ事業」の推進事務局として部門間連携を強化し、農家手取り最大化ならびに地域生産振興の実践に向けてJAへの提案を積極的にすすめます。

② 「えひめの食」企画の展開を通じて、農業情報の発信強化と県産農畜産物の消費拡大に取り組みます。

③ 需要に応じた主食用米および主食以外の水田活用米穀、裏作・転作品目の作付による「水田フル活用」の推進とともに、生産資材部門との連携による収量・品質向上対策に取り組み、トータルコストの低減をはかります。

④ 「にこまる」を中心とした米の良食味栽培体系の確立およびはだか麦高品質品種「ハルヒメボシ」への品種転換をはかり「売れる米麦づくり」に取り組みます。

2. さらに深化・拡充する事業施策

① TAC（担い手に出向く担当者）活動の活性化を推進するとともに「JAグループ愛媛担い手サポートセンター連絡協議会」の最重点取組事項である「担い手育成」「集落営農・法人設立」「労働力確保」「担い手対応人材育成」を各連合会と一体的に支援します。

② 「株ひめライス」の連携を強化し、県域生販一貫体制にもとづく「ひめライス」ブランドの拡販と定着をはかるため、新たな買取販売への転換と大口生産者へのフレコン集荷提案や県域TACによる作付・集荷推進を通じて、県内需

要に応える集荷量の確保に取り組めます。

- ③ 中食・外食用向けの業務用需要に対応するため、多収性で高品質・良食味の業務用向け品種の栽培実証を踏まえ契約栽培による作付拡大をはかります。

園芸部

1. 現3か年計画で示した事業施策の着実な実践

- ① マーケットインにもとづく産地づくりと販売力強化に取り組めます。

ア. 自然災害や異常気象に左右されない生産の安定維持をはかるため、各組織活動を通じて、基本栽培技術の励行と指導の徹底をはかります。

イ. パートナー市場との連携を強化します。

ウ. 果実については、県オリジナル品種の適地適作による生産拡大と品格統一によるブランド化への取り組みを強化し、県行政・全農本所と連携した柑橘類の輸出事業や加工需要など企画販売を強化します。

エ. 野菜については「愛媛チーム」として、契約栽培および企画販売を含めた販売提案と加工業務需要に対応した産地基盤の再構築をめざします。

オ. 直販事業については、実需者ニーズに応じたギフト企画の拡充、および県内外の量販店等に対して地元仲卸との連携による県産青果物の販売を強化します。

- ② 国産青果物の消費拡大に向けた消費者への提案力を強化します。

ア. 果実の消費拡大・購入促進をはかるため、企画型販促や店頭試食宣伝販売を充実させるとともに、「オレンジロード」による果実の情報発信により消費者に効果的なPRを展開します。

イ. 野菜の消費拡大及び「えひめ野菜」のファンづくりに向け、生産者参加型消費宣伝活動の強化と「えひめの食」企画と連携した情報発信、消費者への効果的なPRを展開します。

2. さらに深化・拡充する事業施策

- ① 重点品目について生産基盤の強化をはかります。

ア. 果実については、販売量維持拡大を目的に温州みかんの正品率・反収の向上対策を展開するとともに、キウイフルーツは病害対策の徹底等により生産基盤強化に取り組めます。

イ. 野菜については、重点8品目を設定し生産振興目標の明確化（ドリームプラン）と出荷期間の延長に向けた産地振興に取り組む

ます。

ウ. 生産・販売・流通の効率化のための広域共選拠点の整備に取り組めます。

- ② 直販事業を拡大します。

ア. ギフト企画の提案強化、業務需要・加工仕向けの拡大やリパック機能および冷凍野菜等の付加価値が高い商品提案により、多角的な販売力強化に取り組めます。

畜産部

1. 現3か年計画で示した事業施策の着実な実践

① 事業競争力強化をはかるため、JA西日本くみあい飼料(株)・JAえひめアイパックス(株)との連携を深め、肉牛ではブランド牛生産基盤の拡大をすすめるとともに、肉用牛センターを核としたCBS事業（キャトルブリーディングステーション）を展開し、和牛素牛生産増頭に取り組めます。

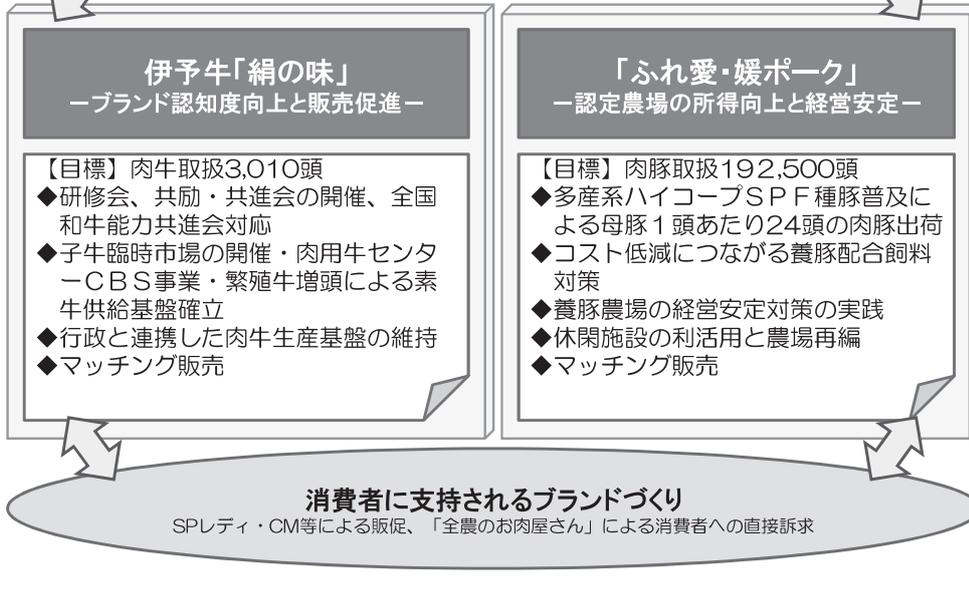
また、肉豚では多産系ハイコープ豚の導入をすすめ、多産に対応した飼養管理技術の普及に努めるなど生産性の向上に取り組めます。

② 畜産クラスター事業や行政対応の支援、また、県内の休閑施設利用や畜舎増改築、規模拡大など、多様なニーズへの対応にスピード感をもって取り組めます。

③ 肉豚192千頭、肉牛3千頭の

畜産事業概念図

生産者の所得向上と経営安定



④ 取り扱いを目標に、系統ブランドの安定生産と品質の向上に努め、手量販店・料飲店とのマッチング販売推進に取り組みます。

- 味」、「ふれ愛・媛ポーク」の認知度向上と消費拡大に向け、生産者・JA・販売先・行政と連携し、消費宣伝活動に取り組みます。また直営店舗運営による消費者への直接訴求、地産地消の啓蒙活動に取り組みます。
- 2. さらに深化・拡充する事業施策**
- ① JA西日本くみあい飼料(株)の進める工場集約・営管理体制整備を補完し、かつ、飼養管理指導の強化に取り組み、農家所得の向上に努めます。
- ② 全農のお肉屋さんさんの展開や、食育活動(学校給食への企画提案など)をすすめ、消費者に直接訴求する販売事業の強化に取り組みます。
- また、JA全農ミートフーズ(株)や県行政と連携し、系統ブランド「伊予牛『絹の味』」、「ふれ愛・媛ポーク」の県外販売拡大と輸出の検討に取り組みます。
- 生産資材部**
- 1. 現3か年計画で示した事業施策の着実な実践**
- ① 物財費の削減、労働費の低減、生産性の向上へ向け、低コスト・省力化資材の開発などトータルコスト低減の取り組みと見える化をめざし、農家手取り最大化モデル
- JAの取り組みを実施します。
- ② 土壌診断事業を積極的に展開し、適正施肥指導による高品質・安定生産に取り組みとともに、担い手への肥料満車直送、土改材のフレコン出荷を拡充します。
- ③ 市場価格調査を踏まえた弾力的な価格設定や予約注文書の改善による系統シェアの向上を図るとともに奨励金の価格折込をすすめます。
- ④ ハウス被覆資材の予約推進と低コスト資材の供給、および省力化技術の普及につとめ、JA・営農部門の生産振興対策に連動した施設園芸の振興をめざします。
- ⑤ 農機事業においては、新品・中古・部品・修理整備事業のバランスをはかりながら事業管理体制を強化し、JA農機事業の事業利益段階収支均衡に取り組みます。
- ⑥ 段ボール工場は、「全農唯一の段ボール直営工場」として優位性を最大限発揮し、生産体制の更なる効率化による高品質段ボールの低コスト生産・安定供給に取り組みます。
- 2. さらに深化・拡充する事業施策**
- ① 肥料の大胆な銘柄集約、大型規格農薬の取扱・担い手直送、ジェネリック農薬の普及拡大に取り組みます。

② 農薬中四国広域物流センター構想にもとづき、地区別物流センターや県内のJA配送拠点の集約などの検討を行うとともに、農薬

予約品の農家セット組配送体制の構築などによるJAグループの低コスト供給体制を整備していきます。

③ 農機重点型式の定着促進や格納点検の拡大、低価格モデル農機の共同購入、中古農機の情報提供など、コスト低減の取り組みを強化します。

④ 段ボール事業においては、新強化中芯の研究・開発進度に応じた導入検討、販売資材全般にわたる省力化・コスト低減につながる提案活動の強化に取り組みます。

生活部

1. 現3か年計画で示した事業施策の着実な実践

① 「新たなJA生活事業の実践運動」を通じ、地域・組合員ニーズに即したJA生活事業の活性化をすすめる、ライフライン店舗の維持と収支改善に取り組みます。

② 県内産農畜産物消費拡大運動に積極的に取り組み、地域農業の振興に寄与するとともに、国産農畜産物を主原料とした「エコーコープマーク品」や「全農ブランド商品」の取扱い拡大をはかり、国産農畜

産物の安全・安心を消費者にお届けします。

③ 協議会活動を通じ、葬祭関連用品の取扱い拡大と葬祭事業の運営改善・施行レベルの向上等協同活動の実践を強化し、JA葬祭事業の体制強化に取り組みます。

④ 施設農住事業においては、「施主代行」方式による事業強化と拡充に取り組みます。

⑤ 施設事業は関係部署との連携をはかり、農業施設の老朽化・広域化にともなう「総合コンサル」、既存施設への診断・提案活動の強化をおこない、事業領域の拡大に取り組みます。

⑥ 住宅事業は情報収集機能の強化をはかり、企画型オリジナル住宅を核とした戸建住宅の拡販と耐震性・バリアフリーに配慮したリフォーム提案を柱に、事業量の安定確保に取り組みます。

2. さらに深化・拡充する事業施策

① ネット販売・通販チャネルを活用したダイレクトマーケティング事業を強化し、生産者の手取り向上に取り組みます。

② 県内産農畜産物販売拠点として、直売所にコンビニを併設した一体型店舗「ファミリーマート・全農ふれっしゅ広場」を運営し、地産地消と地域消費者の利便性向

上に取り組みます。

③ 生活購買店舗の再編支援および業務提携店舗提案をすすめるとともに、買物弱者支援として「JAおかずセット定期便」の推進強化に取り組みます。

④ JA自己改革に伴う施設整備について、「総合コンサル」による導入支援に取り組みます。

⑤ J A女性部などJA組織活動を通じたアプローチによる安全で快適な住環境の提供に取り組みます。

管理部

① コンプライアンスやリスク未然防止意識の更なる浸透・定着をはかるとともに、法務・コンプライアンス担当者の知識の拡充に取り組み、法務・コンプライアンスおよびリスク管理態勢を強化します。

② 事業部との事業検討会等を通じて、収支管理・投資管理・要員管理を強化し、事業計画の達成に取り組みます。また、グループ会社管理を継続し、健全経営の確立に向けた指導・支援に取り組みます。

③ JA意見交換会やJA巡回等を通じて、会員の意思を事業運営に取り入れ、満足度向上をはかります。

④ 「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」に向け、JA間協同による広域体制整備と新規事業開発に

表2 愛媛県本部 29年度取扱高（総供給販売高）計画

(単位：億円)

事業	年度	29年度	28年度	前年比
営農食糧事業		33	32	103%
園芸事業		423	450	94%
畜産事業		209	213	98%
生産資材事業		126	132	95%
生活関連事業		140	139	101%
合計		931	966	97%

取り組みます。

⑤ J Aの現状把握・分析・見直しによるJ A配送拠点の再構築並びに効率的定期農家戸配送・集荷体制の検討・立案に取り組みます。

⑥ 各事業部門における事業施策の実現に向け、営業力・企画力向上のための人材育成と要員の適正配置をはかります。

⑦ J A・組合員に対し県本部グループ事業への理解向上と、広く

表3 グループ会社 29年度売上高計画

(単位：百万円)

会社名	29年度	28年度	前年比
(株)えひめ飲料	24,123	23,170	104%
J Aえひめアイパックス(株)	4,081	3,917	104%
J Aえひめフレッシュフーズ(株)	3,423	3,518	97%
(株)えひめライス	4,087	4,095	100%
J Aえひめエネルギー(株)	2,639	2,794	94%
(株)えひめフーズ	645	785	82%
J Aえひめ物流(株)	6,951	6,865	101%
合計	45,948	45,144	102%

消費者に対し県産農畜産物の消費拡大に向けた情報提供活動を展開します。

経営計画

取扱計画

高齢化等による生産基盤の弱体化、生産資材価格の引き下げ等の影響があるものの、「農業者所得増大

チャレンジ事業」の継続的展開、産地育成の取り組みや多元的販売の体制強化をはかることにより、取扱高（総供給販売高）は931億円とします。

収支計画

厳しい事業環境の中、取扱高（総供給販売高）の減少等による事業収益の減少により事業総利益は28年度計画から7,900万円減少しますが、事業管理費の精査・削減、事業外損益の改善等により、29年度の当期利益は1億円とします。

投資計画

生産基盤維持を目的とした事業施設・農作業支援法人等に対する設備投資および出資、事業所の設備更新や施設老朽化対策、消費電力削減のための設備投資、情報システム開発を計画します。

要員計画

事業環境に対応した適正な要員体制をはかることとし、会内要員は29年度期首で187名とします。

人事異動（平成29年4月1日付）※課長・審査役以上

氏 名	新 任 部 署	旧 任 部 署
竹村 靖	(審議) 副本部長 管理・グループ会社・生活担当	(審議) 副本部長 管理・生活担当
川崎 広範	(監) 営農食糧部長	(審) 企画課長
室賀 敬二	(監) 生活部長	(審) 段ボール工場販売課長
越智 和弘	(審) 企画課長	(副審) 企画課 (課長事故代行者)
山本 洋司	(副審) 果実課 基盤対策専任課長	(副審) 果実課 (課長事故代行者)
矢野 貴之	(審) 段ボール工場長 段ボール工場製造課長 兼務 本所 営農・技術センター 生産資材研究室 段ボール愛媛分室室長 兼務	(審) 段ボール工場製造課長 本所 営農・技術センター 生産資材研究室 段ボール愛媛分室室長 兼務
八木 英士	(副審) 段ボール工場販売課長	(副審) 段ボール工場販売課 (課長事故代行者)
兵頭 英治	(監) J A えひめエネルギー株式会社 出向	(監) 生産資材部次長 段ボール工場長
松浦 勇人	(審) J A えひめ物流株式会社 出向	(審) 企画課 グループ会社統括専任課長

【表の見方】 職能資格呼称等は略称表記しています。

(参事) = 参事役、(審議) = 審議役、(監) = 監理役、(審) = 審査役、(副審) = 副審査役

事務所移転のお知らせ

園芸部 直販課

園芸部直販課は、4月3日よりJ A 愛媛5階北側に事務室を移転しました。
住所および電話・FAX番号が変わりましたのでご確認ください。

◆園芸部直販課

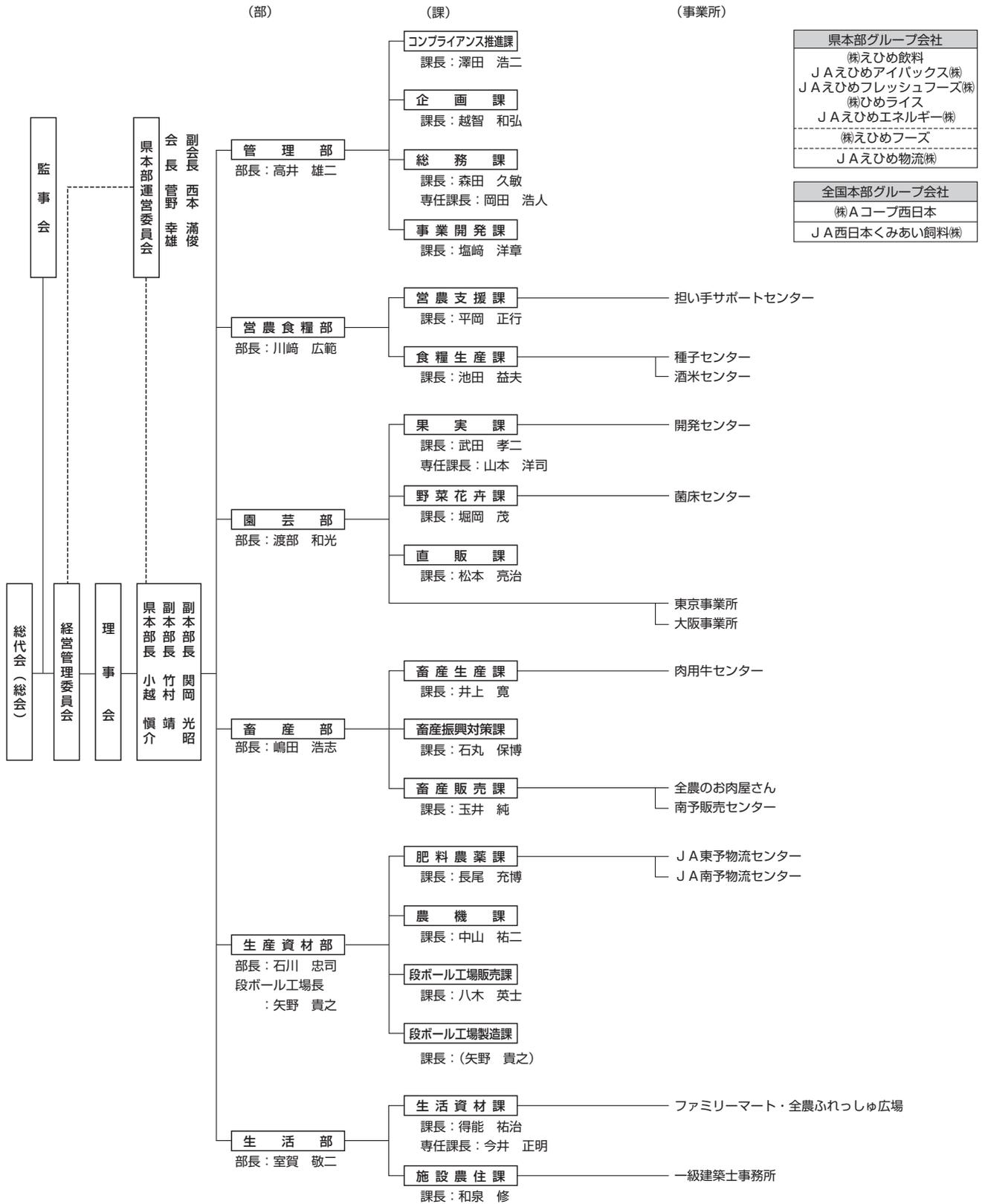
〈住 所〉 〒790-8555 松山市南堀端町2番地3

〈連絡先〉 電話：089-948-5791 Fax：089-998-7382

※営農食糧部営農支援課のFaxは、089-948-5826 に変更しました。

全農愛媛県本部 2017年度（平成29年度） 機構図&ライン管理職等配置

平成29年4月1日現在（6部18課14事業所）



営農・技術センター 生産資材研究室 段ボール愛媛分室
 四国石油事業所 事業所長：房本 雄三 愛媛推進課 課長：崎山 一誠

平成29年度「えひめみかん・いよかんジュース・お茶等愛用運動」価格表
(単位：円)

品名	規格	推進価格 (税抜)	消費税	税込価格
えひめみかん・いよかん ジュース (ペットボトル)	ケース (1ℓ×8本)	2,009	161	2,170
えひめつぶみかん・いよかん ジュース (ペットボトル)	ケース (1ℓ×8本)	2,880	230	3,110
えひめみかん・いよかん ジュース (缶)	ケース (250g×30本)	2,324	186	2,510
愛媛の味わい柑橘100 (ペットボトル)	ケース (1ℓ×6本)	1,963	157	2,120
愛媛の不知火50 (ペットボトル)	ケース (1ℓ×8本)	2,000	160	2,160
えひめの柑橘と国産にんじん (ペットボトル)	ケース (1ℓ×8本)	2,380	190	2,570
愛媛の特煎茶 (ペットボトル)	ケース (500ml×24本)	2,380	190	2,570

この運動は、県内産主要農畜産物の消費拡大により、地域農業の振興とともに、良質で安全な県産品の愛用を進め県民の健康増進をめざす「愛媛県産農畜産物加工品消費拡大運動方針」を受けて毎年取り組んでいるものです。

ジュースの愛用運動は8月末まで、お茶は12月末までの期間限定となっております。今年度は計35万ケースを目標に取り組みますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

生活
資材課

JAグループ愛媛は、今年も4月1日から、『えひめみかん・いよかんジュース・お茶等愛用運動』

(JAグループ愛媛農畜産物消費拡大推進本部・県内各JA・JA愛媛中央会・JA全農えひめ主催)を実施しています。

THE

ねとわーく

「えひめみかん・いよかんジュース・お茶等消費拡大・愛用運動を展開！」

◆今年度の変更点

今年度から、「えひめみかん・いよかんジュース」(1ℓペットボトル・250g缶)と「えひめつぶみかん・いよかんジュース」(1ℓペットボトル)の価格を改定しています。

〔商品特徴〕

① えひめみかん・いよかんジュース
愛媛産の温州みかんと伊予柑の果汁をブレンドした飲みやすく、体にやさしい果汁100%ジュースです。

② えひめつぶみかん・いよかんジュース
愛媛産の温州みかんと伊予柑の果汁にみかんの果粒(つぶつぶ)を加えた、飲む果物感覚の果実分100%ジュースです。

③ 愛媛の味わい柑橘100
愛媛県産の不知火・いよかん・その他ブレンドした爽やかな味わいのジュースです。1ℓペットボトル。

④ えひめの柑橘と国産にんじん
人参の甘さが生きた愛媛県産の柑橘と国産人参のやさしい味わいです。

⑤ 愛媛の不知火50
愛媛県産「不知火」を使用した果汁50%飲料。濃厚な甘味とほどよい酸味が特徴です。1ℓペットボトル。

⑥ 愛媛の特煎茶
愛媛県産茶葉を100%使用し、心地よい苦味とさっぱりした後味の緑茶です。食後やスポーツの後、焼酎等の緑茶割りとしてご利用いただけます。500mlペットボトル。

いずれの商品も、例年と同様に数量限定で取り扱っています。運動期間中でも品切れの際には販売を終了しますので、早めのご注文をお願いします。

毎年県産品として県内外への贈答品として大変好評であり、今年も贈答需要に対応できるように宅配も受けつけています。詳しくは最寄りのJAにお問い合わせください。

統計BOX

農業産出額からみた愛媛の畜産 — 農業産出額及び畜産統計結果から —

今月は、農業産出額のうち、部門別では果実（40%）に次いで県内の24%を占める、畜産部門の動向についてみてみましょう。

畜産部門の農業産出額 1位は豚

図1は平成20年以降の畜産部門の額の動きです。おおむね300億円前後で推移していることが見て取れます。

平成27年は293億円で、内訳をみますと豚が129億円と畜産部門の44%を占めており、次いで鶏卵が61億円（21%）、生乳が42億円（14%）、肉用牛が36億円（12%）などとなっています。

ちなみに四国4県での順位をみますと、豚と生乳が1位、鶏卵が香川に次ぐ2位、肉用牛は徳島、香川に次いで3位となっています。

た、県内畜産部門首位の豚の平成27年の産出額は全国でも16位、また飼養頭数の全国順位は、最新の平成28年データ（注）で15位となっています。

豚、採卵鶏で一戸当たりの規模は拡大傾向

次いで、この産出額を支える農家や飼養頭数の動きなどをみてみましょう。図2～5は、各畜種ごとの近年の飼養頭数と飼養戸数の動きです。

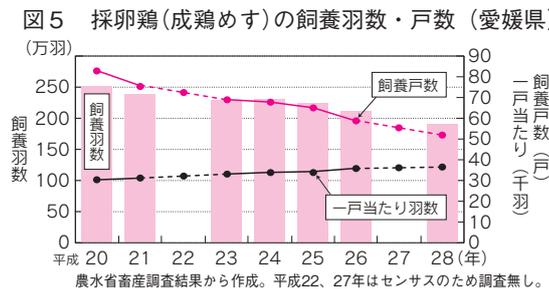
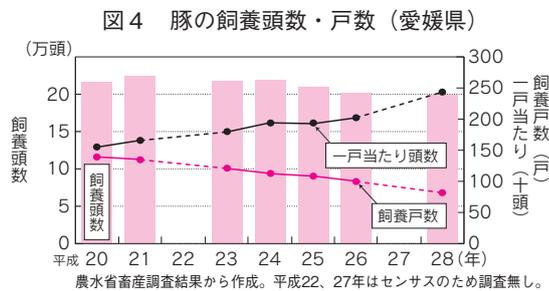
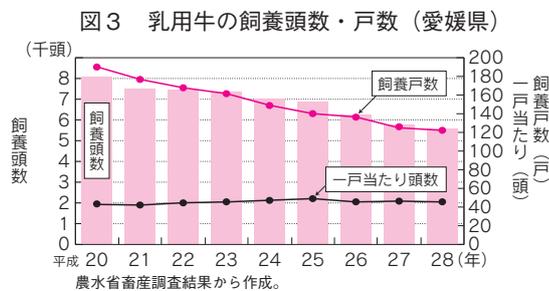
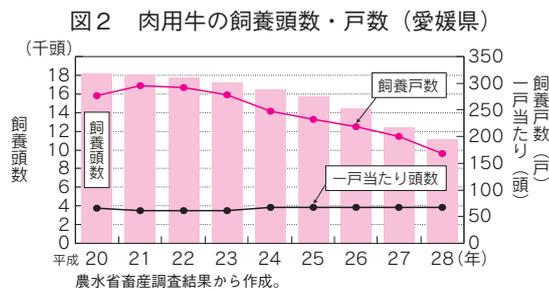
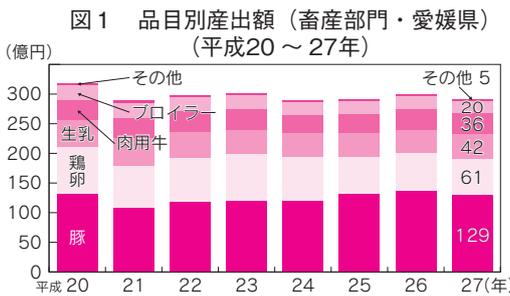
豚は飼養戸数は減少しています。豚は飼養頭数は20万頭前後で推移し、一戸当たりの飼養頭数は平成20年の1,550頭から、28年には2,440頭と6割近く規模が大きくなっています。同様に採卵鶏も飼養戸数・羽数が減少する中で、一戸当たりの飼養羽数は3万羽から3万7千羽へと規模が大きくなって

きています。肉用牛、乳用牛の一戸当たりの飼養頭数は横ばい、しかし、平成20年頃と比べると、飼養戸数は4割近く、飼養頭数もおよそ3割程度減少しています。

農林水産省では、近隣諸国で口蹄疫、国内でも高病原性鳥インフルエンザが発生している状況などを踏まえ、県など関係機関と連携し、これら畜伝染病等の発生、蔓延を防ぐ対策とともに、安全な肉の安定的な生産・消費に向けた諸対策、情報提供を行っています。詳しくは農林水産省ホームページ（検索ワード：農水省家畜防疫）などをご参照ください。

注：平成22年及び27年は農林業センサス年にあたることから豚ならびに鶏については調査がありません。

中国四国農政局愛媛支局 統計チーム





柔道を通じての学び

「柔道を通じての全人教育」を目的として、文武両道の柔道塾・棟田武道館を開設し、20年になります。

指導で一番大事なことは勉強をさせることです。事ある毎に大事なことは勉強だと言って聞かせ、子どもたちにも何が大事かを問うています。棟田武道館の小学生以下の練習は午後7時までとし、帰って食事を済ませて2時間位は勉強ができるように時間割を作っています。

柔道は、勝利至上主義に偏らせず、子どもたちの人生を豊かにする一因となることが最大の目的です。子どもたちの競技者としてのピークはまだ先であるため、発達段階の体に過剰な負担をかけないよう、練習は毎日実施せず、火・木・土曜、祝日は休みです。とは言っても、試合で負けてばかりでは取り組む意欲をなくしてしまいます。限られた時間でいかに効率よく競技力の向上を図り、且つ魅力を感じてもらえる練習内容にするか、「勝ちへのこだわり」と「行き過ぎた練習」とのバラ

ンスを工夫しています。低学年の子どもたちには、「今は基本をしつかり身につける時、高学年になれば必ず良くなってくる」と論じています。

柔道は人間教育や人間形成を目的に創設されました。柔道の練習で体は強くなりますが、人間形成につながる心の面は意識しなければ成長することはありません。試合で良い成績を収めることや金メダルをとることも素晴らしいことですが、そのことで傲慢になったり、人を見下すような人間になるのであれば、それは不幸なことです。柔道は自分の将来を幸せにするために取り組むものです。謙虚な気持ちや思いやり、感謝の気持ちを大切にしよう、機会をとらえて教えています。

最後は、親孝行です。「皆さんが勉強を頑張り、柔道も頑張り、社会生活で生きていくために学校生活、友達との関係、全てにおいて一生懸命頑張ることが親孝行につながっているんだよ」と説いています。

勝負についていえば、そのほとんど

棟田 利幸

TOSHIYUKI MUNETA

昭和23年11月1日、松山市西石井出身・在住の68才。柔道家、四国代表として昭和46年から10年連続全日本選手権出場経験を持つ。講道館柔道八段。柔道場・棟田武道館、会長。愛媛県柔道協会では会長などを歴任し、現在は顧問。

柔道家・棟田康幸の父。

市立石井中学校2年、柔道进行。

県立今治南高等学校へ柔道留学。1年から高校総体メンバーで、3年間県優勝。全国高校総体（インターハイ）団体出場。

日本大学へ進学し、柔道をしながら教職取得を目指す。大学3年で、団体全日本学生大会優勝メンバーに入る。4年生で全日本3位。全日本個人学生選手権は2年連続ベスト8。

昭和46年、大学卒業と同時に愛媛県警察を辞命し、平成21年3月定年退職。勤続38年の多くを後進の柔道指導にあたる。親交のあった漫画家・梶原一騎原作の「空手バカ一代」に登場する柔道家・雲井代悟は棟田利幸をモデルとしている。

■棟田武道館

住所：松山市西石井6-5-35（石井小学校 北100m）

TEL：089-905-0666（道場）

089-956-5734（事務所・FAX兼）



▲棟田武道館前にて

は修業年数と深くかわってきます。日常の練習量やトレーニング、精神力づくり、節制などの積み重ねで、戦う前に決定している要素は多々あります。だから、勝負は結果を問うより、目標に向かって精いっぱい努力することが大事です。子どもの可能性は素晴らしい。私たちは簡単に他人の力を判断してしまいがちですが、力は本人の気持ちひとつで大きく変わります。特に成長期の子どもの力は無限大です。

保護者の方には「うちの子はダメ」と簡単に決めつけないで子どもを信じて長い目で見るようにと、お伝えしています。強くなりたいという意欲を植えつけてあげたいと思っています。柔道では英才教育は必要とは思わないし、行ってもいけません。乱取りの練習の時間など、教えた以上に自分の考えで臨機応変に技を出せるように進言しています。

練習も試合も、勝負に関係なく内容



▲道場には、オリンピック金メダリストの山下泰裕さんと戦う様を描いた絵画が飾られている

が良い時には褒めています。本人の努力は最も大切な要因です。能力の差は小さいけれど、努力の差は大きいです。努力をしても優勝できない人はたくさんいますが、優勝をした人はみんな必ず努力をしてきた人だからです。

道場からたくさんOBを輩出してきましたが、各種大会で優勝や入賞をした子どもは、指導者による手取り・足取りの稽古以上に、自分で考え、努力し、技を習得し、上学年になるにつれて強くなってきました。一人の先生に指導を徹底して受けるだけでなく、いろいろな人のアドバイスを自分の考えを取り入れて努力した子が結果を残していると考えています。

今後も私の道場では子どもの自主性を伸ばして指導していきたいと考えています。

28年産米の食味ランキングで愛媛県産「にこまる」が特A獲得！

2月23日、一般財団法人日本穀物検定協会から発表された「平成28年産米食味ランキング」で、愛媛県産「にこまる」が最高ランクの「特A」評価を受けました。

愛媛県産米の特A評価は、平成26年産の「ヒノヒカリ」に次いで2回目。

J A全農えひめ食糧生産課は、「ここ数年、生産者・J A、県をはじめ関係機関が一体となり愛媛県産『にこまる』の食味向上に取り組んできた成果。特A獲得を追い風に、生産・販売面で愛媛県産「にこまる」ブランド化を推進するとともに、生産者・J A・関係機関・グループ会社とともに愛媛県産米のさらなる品質向上と消費拡大、販売促進に取り組んでいきたい」としています。

米の食味ランキングは、一般財団法人日本穀物検定協会が、昭和46年産米から、全国規模の産地品種について食味試験を行い、毎年ランキングとして発表しているもの。同協会の専門評価員（食味評価エキスパートパネル）20人が、白飯の「外観・香り・味・粘り・硬さ・総合評価」の6項目について、基準米よりも特に良好なものを「特A」、

良好なものを「A」、おおむね同等なものを「A'（Aダッシュ）」、やや劣るもの「B」、劣るもの「B'」という5段階で評価し、公表されています。平成28年産は、全国141産地品種について食味試験が行われ、特A評価は44産地品種でした。なお、愛媛県産米の「コシヒカリ」「あきたこまち」「ヒノヒカリ」は「A」評価でした。



▲愛媛県産「にこまる」の統一精米袋

●J Aえひめアイパックス(株)

選拔出場の帝京第五野球部に豚肉35kg贈る

J Aえひめアイパックス(株)は、第89回全国選抜高校野球大会に出場する地元の帝京第五高等学校野球部に、同社直営農場で育てた豚肉「せと風ポーク」ロース約35kgを贈りました。

2月24日、同社の峰岡茂夫社長が同校を訪問し、谷本勝幸校長、小林昭則野球部監督らと懇談し、目録を贈呈。峰岡社長は、「今回の出場地域も大いに盛り上がっています。『敵に勝つ』でトンテキ・とんかつ等にして力を発揮して、最高の成績をおさめられるよう期待しています」と激励し、谷本校長は、「48年ぶりの出

場と言っても、初出場と同じ気持ち。地域活性化のためにも選手が頑張ってくれると思う」と健闘を誓いました。



▲(左から)小林監督、谷本校長と峰岡社長

●(株)えひめ飲料

帝京第五野球部にジュース10ケース贈る

(株)えひめ飲料も3月14日、帝京第五高等学校野球部にジュース10ケースを贈りました。

同社大阪営業所の門間伸一所長が、神戸市の同校宿舎を訪ね、同社の「ポンジュース」(350ml24本入り)と「POM国産果実野菜ジュ

ース」(200ml12本入り)を各5ケース届けました。

同社は、毎年、愛媛県内の春と夏の甲子園出場校にジュースを贈り、球児の活躍を応援しています。

●系統経済事業意見交換会

農業者の所得向上など今後の方向・計画について意見交換

J A全農えひめは、県内J A代表者の声を事業運営に反映させようと、2月27日、J A愛媛で、平成28年度「系統経済事業意見交換会」を開きました。

会議には、県内J Aの経営管理委員会会長、代表理事組合長・理事長のほか役員、全農本所から金剛寺誠常務、愛媛県本部から菅野幸雄運営委員会会長と部長以上の幹部職員、グループ会社の社長などが出席。事業概況と29年度事業計画について説明後、意見交換を行いました。

菅野会長は、「28年度から取り組んでいる、『農業所得の増大』『農業生産の拡大』『地域の活性化』を事業施策の柱とする3か年計画を、グループをあげて実践しています。29年度計画では、さらに、『生産資材価格の引き下げ』『流通・加工の業界構造の確立』などを中心に、『魅力増す農業・農村の実現に向けたJ Aグループの取り組みと提案』で示した具体策を加え深化・拡充するとともに、「農業競争力強化プログラム」で全農に求められている取り組みを具体化し、スピードを上げて実践していきます。本会議では皆様から忌憚のないご意見をお願いしたい」



とあいさつしました。

J A役員からは、「生産資材の銘柄集約は進めていきたいのでJ Aと協議しながら取り組んでもらいたい」といった要望のほか、「資材コスト引き下げや販売強化の取り組み」「農作業支援の考え方」「生活事業の物産宅配事業の取り組み強化の考え方」などについて質問や意見が出されました。

●J A青壮年組織代表者とJ A全農えひめとの意見交換会

自己改革と農業者所得増大チャレンジ事業の取り組みを中心に意見交換

J A全農えひめは、2月27日、松山市のJ A愛媛で、J A愛媛青壮年連盟とJ A青壮年組織代表者・J A事務局を交えて意見交換を行いました。

J A愛媛青壮年連盟の岡崎晃裕委員長をはじめ執行部やJ A青壮年組織代表、J A事務局、J A全農えひめからは小越愼介県本部長をはじめ関係部長など計37人が出席。

岡崎委員長は、「意見交換を通じて農業者の意見・要望を受け止めていただき、オール愛媛で愛媛農業の振興に取り組んでいきたい」、小越県本部長は、「『農業者所得増大チャレンジ事業』で所得増大と愛媛農業の振興に取り組んでおり、生産者の皆さんに見える化を進めたい」とあいさつしました。

J A全農えひめからは、全農自己改革と「農業者所得増大チャレンジ事業」の取り組みを紹介しました。

意見交換では、青壮年組織代表から、「1円でも安く、1円でも高く！『魅力増す農業・農村の実現』に向けて一層の自己改革に取り組んでもらいたい」「TPPや2国間協議により兼業



農家も含め米価の下落を懸念しているが、対応はどうか」「果樹の販売量が減少している中、ブランド確立に向けて県域での広域選果を」「魅力増す農業農村の実現に向けての中で需要をつくとあるが、国内人口が減少していく中でどう対応するのか」といった質問・要望・提案が出され、J A全農えひめが現在の取り組み状況や今後の方向を交えて回答・説明しました。

●JA愛媛養豚経営者協議会階層別セミナー 中堅担当者を対象に生産技術向上に向け畜舎環境対策を学ぶ

JA愛媛養豚経営者協議会は、2月15日、松山市のJA愛媛で農場の中堅担当者やJA担当者を対象に中堅セミナーを開催しました。

同協議会は、平成28年度からスキルや生産技術の向上を図ろうと階層別セミナーを開催しており、10月の基礎セミナー、1月の経営者セミナーに続き、今回が3回目。農場の中堅職員やJA担当者など約30人が参加しました。

同協議会の松田智会長は、「養豚従事者のレベルを上げて産地を守っていこうと階層別セミナーを開催しています。今日は豚舎の環境、特に換気や温度管理の技術を学び、日頃から持続的に質の高い管理ができるようにしてほしい」とあいさつしました。

セミナーでは、全農飼料畜産中央研究所養豚研究室の坂爪義弘室長が、「豚舎の環境対策～換気・保温・防寒防暑対策の実践～」について講演したほか、同研究室の窪田祥史さんが、多産系種豚「新杯コープ豚」の繁殖成績や分娩モニタリング、飼育密度について情報提供がありました。



●(株)えひめ飲料

えひめ逸品柑橘シリーズ初のゼリー飲料「POMえひめ逸品柑橘 愛媛河内晩柑ゼリー」発売

(株)えひめ飲料は、ゼリー飲料「POMえひめ逸品柑橘 愛媛河内晩柑ゼリー」(280ml・ペットボトル)を3月20日全国一斉発売しました。

愛媛県では栽培が盛んでありながら全国的にはあまり知られていない隠れた逸品柑橘の美味しさにこだわった『POMえひめ逸品柑橘』シリーズの第7弾商品で、シリーズ初のボトルを振って飲むゼリー飲料です。愛媛県が全国生産量の7割を占める「河内晩柑」の果汁を使用し、爽やかな味わいととぶるんとした食感が特徴です。

水分補給と同時に小腹満たしのできるゼリー飲料は、飲む時の環境や季節に左右されにくい。ため近年消費も伸びている。同社は、「河内晩柑」は逸品柑橘シリーズの中で最も人気の高かった柑橘。ゼリー飲料で若い女性などを中心に販売拡大をめざしています。

同シリーズは、「まだ見ぬ愛媛の逸品柑橘との出会いを創出する」という想いも込めて商品化。品種名の入った商品名に加え、パッケージデザインに愛媛県のイメージアップキャラクター「み

きゃん」を表示し、「愛媛産」を前面に打ち出しており、少量多品種化が進む愛媛のかんきつの認知度アップも期待しています。

希望小売価格は152円(税込)。「POM NET SHOP まじめな宅配便」(電話0120-591-516)でも販売中です。



●全農愛媛県本部・コープえひめ 提携促進協議会 交流・学習活動等を通じて産直・連携強化を

JA全農えひめとコープえひめは、2月28日、「全農愛媛県本部・コープえひめ提携促進協議会」を開きました。

協議会は、平成6年に締結した「協同組合間提携強化に関する協定」に基づき毎年開催しており、今回で22回目。会議には、両組織の幹部と取引のあるJA全農えひめグループ会社の社長が出席し、28年度の取り組み結果やコープえひめからの提案・要望も踏まえて、JA全農えひめグループから事業別に29年度の取り組み提案を行い、連携強化に向けて協議しました。

29年度は、日常的な組合員産地見学や産直・県

内産商品の学習会などを通じて、両組織の組合員の期待に応えられるようステップアップしていくことを確認しました。

なお、全農えひめグループからコープえひめへの平成29年度供給高は、約11.6億円を計画しています。



なんでもBOX

●第46回日本農業賞

日本農業賞個別経営の部「大賞」に石田慎一さん 集団組織の部「優秀賞」にJA松山市久万高原トマト部会

第46回日本農業賞（主催：JA全中・NHKなど）の個別経営の部で愛媛県代表の石田慎一さん（砥部町・JAえひめ中央）が大賞に輝きました。集団組織の部「優秀賞」では、同代表のJA松山市久万高原トマト部会（代表＝渡部進部会長、98戸）が選ばれました。

同賞は、日本農業の確立を目指し、意欲的に経営や技術の改善と発展に取り組み、地域社会に多大な貢献をされている農業経営体を表彰するものです。



▲大賞を受賞した石田さん（愛媛県代表表彰式で撮影）

●平成28年度えひめの「食」料理コンクール

「愛」あるブランド産品PRに向け料理コンクール

えひめ愛フード推進機構などが主催する「平成28年度えひめの『食』料理コンクール」が、2月1日、松山市のいよてつ高島屋8階スカイドームで開かれ、県内の調理師を対象とした和食・洋食・中華部門と学生部門の計4部門で試食審査が行われ各賞が決まりました。

同コンクールは、「愛」あるブランド産品のPRと地産地消の推進をはかるため行われており、今回は、和食が「ふれ愛・媛ポーク」や里芋「伊予美人」など、洋食部門では愛媛オリジナル柑橘の「甘平」、アスパラガス「緑のささやき」など、中華では「えひめ産乾しいたけ」など、学生部門は「ふれ愛・媛ポーク」を指定食材に料理を募集しました。

審査の結果、最優秀賞は、和食部門で富永慈さん（椿館本館）、洋食部門は岡本薫さん（東京第一ホテル）、中華部門は山下大輔さん（赤坂四川飯店松山店）、学生部門は宮崎葉奈さん（愛媛調理製菓専門学校）が受賞しました。



▲和食部門最優秀賞の富永さんの出品料理

●第55回愛媛マラソン

媛ポークランナーズとJA全農えひめチームが走る広告塔として力走

「第55回愛媛マラソン（湯ったりオレンジロード）」が、2月12日に開催され、「ふれ愛・媛ポーク」生産者、JA全農えひめ職員や関係者など計30人が出場しました。

「ほのぼの媛ポークランナーズ」は、生産者と関係者など19人が『ふれ愛・媛ポーク』のロ

ゴマーク入りユニフォームで出場。「JA全農えひめチーム」も11人がJA全農えひめのロゴの入った揃いのユニフォームで出場。それぞれ走る広告塔として、沿道の方々にブランドやJA全農えひめをアピールし、30人全員が完走しました。



▲媛ポークランナーズ



▲JA全農えひめチーム



4月14日は
愛媛発祥の「オレンジデー」



4月14日は愛媛発祥の「オレンジデー」です。
JA全農愛媛

4月14日は「オレンジデー」は、「愛のシンボル」であるオレンジを贈り合い、愛を育み大切な人との絆を深める記念日です。

「オレンジデー」は、平成6年に愛媛県内のかんきつ生産農家が発案したとされ、JA全農えひめが平成21年5月に日本記念日協会に登録した記念日です。

JA全農えひめは、愛媛発祥の「オレンジデー」を盛り上げて、生産量日本一を誇る愛媛産柑橘のPRと消費拡大につながる取り組みを進めています。

◆イベント情報

「オレンジデー」当日の4月14日（金）、松山市の道後温泉本館前と松山空港1階到着ロビーで、愛媛いよかん大使らが旬の柑橘「清見タンゴール」をそれぞれ414個（1人1個）を無料配布します。

（4月14日サンプリングイベント）

9時～ 道後温泉本館前
13時30分～ 松山空港1階到着ロビー

- 愛媛は柑橘王国というくらい、たくさん種類の柑橘類がありますね。伊予柑の配布は受験生へのうれしいプレゼントになると思います。また、甘平（かんぺい）は本当においしいですね！いろいろなみかん類が食べられて、愛媛県に住んで本当に良かったと思います。
（今治市・藤田 亜紀子さん）
- 昨今、多数の品種がある中で、伊予柑はやはり食べる就非常美味しく、みずみずしく感じています。食べにくいとの声も聞きますが、こんなに美味しい伊予柑をみんな食べて、「いい予感」になることを祈っています。
（松前町・田中 克也さん）
- エッセー「「橙」をめぐる古今東西」を読んで。椿にまつわるお話とても興味深かったです。女性向けブランドを目指して、愛媛の特産品になればいいなと思いました。
（松山市・永井 文江さん）
- エッセーを読んで。伊予豆比古命神社、昔はよく行っていました。おたまんあめを買って食べたのを覚えております。最近ちょっと無沙汰しておりますが、すみません。また来年家族で行ってみたい気持ちになりました。椿の湯も若い頃にはよく行っていたのにと楽しい思い出がよみがえります。ありがとうございます。
（松山市・松本 興八さん）

- エッセー「「橙」をめぐる古今東西」古事記にしろされた国名を現在の都道府県名に使っているのは愛媛県だけだと聞いて感動しました。
（今治市・秦 ミヨ子さん）
- 椿の歴史は古いものと知りました。「新たな女性向けブランド化をめざし生産を検討されては如何でしょう。」と提案をいただきました。実は家のウラには椿並木があります。その椿を見上げて今日この頃です。
（八幡浜市・平家 世利子さん）
- 農の風景、いつもこの巻頭にある1ページが好きで読ませていただいています。それぞれの企業の思いが感じられるのが心打たれる要因でしょうか。機械化の中で労力のかかる手作業を惜しまず行う姿勢は見習いたいものです。2ページからの「農業者所得増大チャレンジ事業」についても興味深かったです。
（今治市・曾我部 旬市さん）

編集後記

★特集では、平成29年度の事業計画を紹介しました。「より近く より深く より前へ」を掲げ、取り組みます。ご一読ください。
愛媛の「にこまる」が28年産米の食味ランキングで特Aを獲得しました。さらなる認知度アップとブランド化に弾みがつきそうです。
今回で「あぐり〜ど」の編集も最後となりました。長い間皆様には大変お世話になりました。ありがとうございます。次号からは、入会3年目の西村有紗が担当します。引き続きご支援・ご協力をお願いいたします。
（正直）

お知らせ

読者ハガキおよび
今月のクイズの休止について

JA全農えひめ情報「あぐり〜ど」では、広報活動見直しの一環として、今回発行する4月号より、ハガキの綴じ込み（お便り募集）およびクイズの出題を休止することといたしました。

※5月号では、3月号で出題したクイズの答えおよび当選者の紹介、リーダーズ通信のお便り紹介は行います。

なお、本誌は5月号以降も引き続き発行しますので、ご愛読いただきますようお願いいたします。

当選者発表

2月号の答えは「湯島（天神）」でした。たくさんのお便りありがとうございました。

厳正な抽選の結果、次の10人の方に図書カード1,000円分をお送りします。

- 越智 良和さん（西条市） 三好 昇さん（四国中央市）
- 井上 清美さん（八幡浜市） 青野 浩徳さん（西条市）
- 秀野 隆昭さん（松山市） 岡田 佳子さん（新居浜市）
- 柳原 磯美さん（今治市） 高山千代香さん（今治市）
- 米花佐智子さん（八幡浜市） 乾 律子さん（今治市）

2月号の
クイズ
当選者



NOW NOW

COOKING

今月の素材
えひめみかん・いよかんジュース



さわやかな柑橘の風味が
春を彩る、ごちそうに！

▶(前) サラダ寿司、(後) 春キャベツとタコのみかんポン酢和え、
(左) 鶏肉と長芋のみかん風味ソテー



指導／学校法人愛媛学園（愛媛調理製菓専門学校）大佐古 正子先生

鶏肉と長芋のみかん風味ソテー

〈材料・4人分〉	※1人あたり約271kcal
鶏もも肉	1枚(約250g)
塩・コショウ	少々
小麦粉	適量
長芋	1/2本(約300g)
タマネギ	1個
アスパラガス	4本
塩	少々
サラダ油	大さじ1
えひめみかんいよかんジュース	100cc
パセリ(みじん切り)	少々
黒コショウ(粗びき)	少々

〈作り方〉

- ① 鶏もも肉は一口大に切り、塩・コショウをして小麦粉をまぶす。
- ② 長芋は1.5cm厚の半月切りにする。タマネギは1cmのくし切りにする。
- ③ アスパラガスは塩茹でにして冷水にとり、斜め4等分に切る。
- ④ フライパンに油を熱し、①を両面焼き、取り出して②を炒め、①を戻し入れる。ジュースを加えて強火にして煮詰め、塩・コショウで味を調える。
- ⑤ 最後に③を加える。
- ⑥ 器に盛りつけ、パセリと黒コショウをふる。

春キャベツとタコのみかんポン酢和え

〈材料・4人分〉	※1人あたり約42kcal
春キャベツ	4枚
タコ	100g
生ワカメ	50g
塩	少々
えひめみかんいよかんジュース	大さじ4
ポン酢	大さじ2
白煎りゴマ	小さじ1
カツオ節(糸がき)	6g

〈作り方〉

- ① 春キャベツは3cm角に切り、さっと塩茹でし、冷水にとり、水気を絞る。
- ② タコ、ワカメは食べやすい大きさに切る。
- ③ ボウルにジュースとポン酢を合わせ、①と②をさっくり合わせ、白ゴマを混ぜる。
- ④ 器に盛りつけ、カツオ節をのせる。

サラダ寿司

〈材料・4人分〉	※1人あたり約491kcal
米	2合
えひめみかんいよかんジュース	240cc
水	120cc
[すし酢]	
酢	大さじ1
えひめみかんいよかんジュース	大さじ3
砂糖	大さじ2
塩	小さじ1/2
[玉子焼き 1本分]	
卵	3個
砂糖	小さじ2
薄口醤油	小さじ1/2
無頭エビ	8尾
塩	少々
サニーレタス	2枚
でんぶ	大さじ2
マヨネーズ	大さじ4
焼き海苔(全形)	4枚

〈作り方〉

- ① 炊飯器に洗米とジュース、水を入れて炊く。
- ② ④を混ぜ合わせ、炊きたてご飯①にさっくりと混ぜ合わせる。
- ③ ボウルに卵を割りほぐし、砂糖と醤油を混ぜて1本の玉子焼きを作り、縦4等分する。
- ④ エビは背ワタをとり、のし串を打ち、塩を入れた湯で1分半～2分茹でて冷水にとり、冷まして、殻をむく。
- ⑤ 巻きすに海苔をのせて②を広げ、でんぶを真ん中横一列にのせ、レタス・④・③・マヨネーズをのせて、巻く。
- ⑥ 残り3本も同じ手順で作る。

熱中症対策に！

POM 塩と夏みかん

SALT & NATSUDAIDAI

伯方の塩 使用 国産夏みかん 使用 カロリーオフ アイソトニック飲料

栄養成分表示(100mlあたり) エネルギー 18kcal / たんぱく質 0g / 脂質 0g / 炭水化物 45g / ナトリウム 53mg 食塩相当量(200mlあたり) 0.27g

株式会社 えひめ飲料 〒791-8603 松山市安城寺町478番地 http://www.ehime-inryo.co.jp
 TEL: 089-923-1500 FAX: 089-924-0304 (通販専用) http://www.pom-j.com



全国発送
承ります



<p>えひめ みかん いよかん ジュース</p> <p>果汁100%</p>	<p>えひめ みかん いよかん ジュース</p> <p>果汁100%</p>	<p>えひめ みかん いよかん ジュース</p> <p>果汁100%</p>	<p>愛媛の 味を 柑橘 100</p> <p>果汁100%</p>	<p>えひめの柑橘と 国産にんじん</p> <p>果汁100%</p>	<p>愛媛の 不知火 50</p> <p>果汁50%</p>
<p>えひめみかん いよかんジュース 参考組合員価格 2,510円(税込) 250g×30本/ケース</p> <p>愛媛産の温州みかん いよかんの柑橘果汁を ブレンドした飲みやすく 体にやさしい果汁100 %の飲みきりサイズの缶 ジュースです。</p>	<p>えひめみかんいよかん ジュース 参考組合員価格 2,170円(税込) 1,000ml×8本/ケース</p> <p>愛媛産の温州みかん いよかんの柑橘果汁を ブレンドした飲みやすく 体にやさしい果汁100 %ジュースです。</p>	<p>えひめつぶみかん いよかんジュース 参考組合員価格 3,110円(税込) 1,000ml×8本/ケース</p> <p>愛媛産の温州みかん いよかんの果汁にみか んの果粒(つぶつぶ)を 加えた飲む果物感覚の 果実分100%ジュース です。</p>	<p>愛媛の味わい 柑橘100 参考組合員価格 2,120円(税込) 1,000ml×6本/ケース</p> <p>愛媛県産の 不知火・いよかん・ その他をブレンドした 爽やかな味わいです。</p>	<p>えひめの柑橘と 国産にんじん 参考組合員価格 2,570円(税込) 1,000ml×8本/ケース</p> <p>人参の甘さが生きた、 愛媛県産の柑橘と 国産人参の やさしい味わいです。</p>	<p>愛媛の 不知火50 参考組合員価格 2,160円(税込) 1,000ml×8本/ケース</p> <p>愛媛県産の不知火を 使用した果汁50% 飲料、濃厚な甘味と程 よい酸味です。</p>

※宅配運賃について ●同一受注同一送付場所です5ケース以上の場合には配送運賃は無料です。●5ケース未満の場合は、ケース毎に500円(税込)加算します。

愛用運動期間 4月1日～8月31日

主催団体／JAグループ愛媛農畜産物消費拡大運動推進本部・県内各JA・JA愛媛中央会・JA全農えひめ
協賛団体／JAえひめ女性組織協議会・愛媛県農協青壮年連盟・愛媛県果樹同志会・愛媛県果実生産出荷安定協議会・
愛媛県茶業振興協議会・JA愛媛県信連・JA共済連愛媛・JA愛媛厚生連・愛媛県高連・JA愛媛施設連



VEGETABLE OIL INK
環境に配慮した植物油インキ
を使用しています。

この冊子は再生紙を使用しています。